

はじめに

情報社会学会会員の皆様

情報社会学会誌 Vol13, No1 をお届けいたします。

本号では、8本の原著論文、2本の研究ノートを掲載いたします。いずれも、萌芽性、新規性、さらなる研究への期待があり、情報社会学への貢献は大きいと考えます。

原著論文「ネット上の行動についての意見分布の推測」は、意見分布を考慮した情報リテラシー教育の検討は、新しい試みであり、大変意義のあるものと考えます。このテーマについて議論を深める事は情報社会学の発展に寄与するものであり、興味深い内容です。

原著論文「SNS記事におけるプライバシー侵害に関わる特徴量の推定」は、Twitterへの投稿記事を非負値行列因子分解、サポートベクター回帰モデル、およびベイジアンネットワークを組み合わせた手法で分析し、プライバシー侵害に因果関係のある特徴量を評価したものです。本研究が発展することで、SNS上でのプライバシー侵害の防止につながるなど、情報社会のさらなる発展に寄与するものと期待できると思います。

原著論文「「人のつながり」のスケールフリー性の検証及び要素への分解可能性検証」は、人のつながりに着目し、実データを用いて2つのモデルの適合度を検定し、さらに人のつながりに影響する要素を特定しようとするものです。発達した情報社会において様々なコミュニケーション手段ができた中、人のつながりに関する本研究は情報社会学を豊かにするものと考えられます。

原著論文「グローバルな認知資産形成を阻害する日本の社会的インセンティブシステム」は、問題視している日本企業の競争力低下について、それを人的資産からソリューションを導くアプローチには共感します。

原著論文「サクセスフル・エイジングのためのアクティブ・シニアのスタートアップ活動に関する研究：Well-Being向上の一方法としての起業に関する考察」は、シニア世代の起業活動に焦点を当て、サクセスフル・エイジングのためのアクティブ・シニアのスタートアップ活動について考察しています。今後、高齢者人口が増大する中、シニアの社会進出を考える上で有用なテーマであると感じます。

原著論文「日本企業におけるチームパフォーマンスモデルに関する研究」は、変革型リーダーシップがチームワークに影響を与え、チームワークがチーム効力感に影響を与えることに着目し、モデルの検証から結論を導き出しています。

原著論文「共同開発現場における集合的メタ認知的言語化と文脈価値創出プロセス」は、ユーザーと開発者が共同開発を行う際の身体知移転プロセスが、ユーザーの性質によってどのように変化するのかについて考察しています。本研究により文脈価値創出プロセスの解明が期待できるなど、学術的価値は高いと思われます。

原著論文「ヘゲモニーとしての修正新自由主義—世界システムと国民国家の政治経済学—」は、ケインズ主義的社会民主主義から新自由主義への転換およびその修正に着目して、先進産業諸国の政治経済運営の理念およびその歴史的経緯について考察した意欲的な論文です。

研究ノート「観光促進のための360度VRシステムの構築と評価」は、研究ノートとして形式的適格性、学問的価値ともに掲載に値すると判断します。今後、VRシステムが他の方法と比較して、どのような面で効果的なのかを検証する実証的な研究に期待します。

研究ノート「地域創生におけるクラウドファンディングの連続的活用による3タイプのエコシステムモデルの構築-ソーシャルメディアによるコミュニティ形成モデルの研究-」は、SNSによるコミュニケーション形成モデルとクラウドファンディングの3タイプのエコシステムモデルを関連付けた、ユニークな研究であると思います。さらなる研究に期待します。

多くの研究が投稿され、多岐にわたる研究分野の成果が報告されました。今後のさらなる研究の発展に期待します。会員皆様の積極的な研究活動に期待すると同時に、情報社会学に関する多彩なご投稿をお待ちしています。

2018年8月4日

情報社会学会  
会長・編集委員長  
大橋 正和